

産婦人科医（健診システム）

山下 恵一 KEIICHI YAMASHITA

《婦人科検診部門を担当して》

子宮がんには、年配の方がかかる子宮の奥に出来る「体がん」と若い方がかかる子宮の入り口にできる「頸がん」があります。子宮頸がんの主な原因は、「ヒトパピローマウイルス（HPV）」というウイルスです。

HPV は性交渉によって感染するため、性体験のある女性の80%が感染するといわれていますが、全ての人のがんになるわけではありません。感染しても多くの場合、本人の免疫機能が働いて排除されます。ところが、がんを発症させるリスクの高い（ハイリスク型）HPVは排除されず、長期にわたって感染することがあり、このような場合に、感染から5~10年を経てがんを発症するとされています。

検診方法は、子宮を触診して形状などを調べる「内診」と、子宮の奥や入り口の粘膜を綿棒などで軽くこすり、採取した細胞を顕微鏡で調べる「細胞診」、更には「ハイリスク型 HPV を直接調べるウイルス検査」があります。がんの初期にはほとんどの自覚症状がありませんが、進行してくると不正出血やおりものの異常、下腹部痛などがみられるようになります。

そこで、症状のないうちにがんを見つけるのが「がん検診」の最大のメリットです。早期に見られれば、それだけ早く治療ができ命を落とさずにすむのです。

《プロフィール》

2011年深谷赤十字病院（副院長）を退職し、それまでの激務から解放されホッとしていたところ、当院・理事長「菱沢利行先生」に健診部門でのお手伝いを熱心に依頼されました。彼とは「大学・運動部（バレーボール）・更には同じ埼玉県出身」の事もあり、学生時代には親しくお付き合いしていた間柄でした。

卒業後は、診療科の違いもあり、縁遠くなっていましたが、縁あってお互いにこの県北の医療圏で地域医療の一翼を担うことになった次第です。以来、私は「土曜日」を担当しておりますので、よろしくお願ひします。